



相模原市立千木良小学校 学校だより

千木良小だより



自ら学び 心豊かに 生きる子の育成

令和8年5月29日 No.3

大切なものは目に見えない

学校長 門倉 恭子

先日、津久井やまゆり園の永井清光園長を迎え、職員に向けての研修を行いました。今年で、あの痛ましい事件から10年が経つ津久井やまゆり園。この10年、コロナ禍もあり、同じ千木良の中にありながらも交流することが少なくなっていました。しかし、やまゆり園のポニー乗馬やクリスマスコンサートなどの行事に参加させてもらったり、子どもたちと利用者さんとでポッチャをしてふれ合ったりなど、交流が再スタートしています。同じ千木良に住む仲間として、子どもたちにやまゆり園のことをもっと身近に感じてもらえるように、そして、やまゆり園の人たちは、千木良の中でどんな風に過ごしていきたいと考えているのかを知るために、まずは私たち職員が学ぼうという思いからの研修でした。

園長さんは、「利用者さんが千木良に住んでいること、それだけでは地域の中に住んでいることにはならない」とおっしゃっていました。社会（人）とのつながりが大切だということ、それが地域で生きていく第一歩であるということです。どんなに重い障がいのある利用者さんであっても、感情や意思があり、心が生きている。その心を理解することが大切であり、理解するため私たちからもつながっていくことが大切であると気づかされました。これは、学校生活で友だちとのよい関係を築くためにも必要な行動であると思います。園長さんは、利用者さんに会議等にも出席してもらって意見を聞き、その声を大事にしながら一人一人の人生を理解することに努めているそうです。

職員から、「小学生にやまゆり園の利用者さんのことをどう伝えていけばいいだろうか？」という質問が出ました。それに対する園長さんの答えはこのようなものでした。

「障害は不幸を作ることしかできない」これが事件を起こした犯人の犯行に至った理由の一つです。私たちは、目に見えていることだけで判断しがちですが、本当に大切にすべきことは、「大切なものは目に見えない」ということです。

この言葉は、サン＝テグジュペリの『星の王子さま』に由来し、心の価値や愛、友情、信頼など、目に見えないものの重要性を強調しています。目に見えるものや外見はほんの一部にすぎません。

人を見た目や障がいの有無という基準で判断するのではなく、「誰でも同じように歓迎されて生をうけ、そして成人になり、いずれ老いて生を全うする」このように誰もが同じ人間、同じ存在です。

誰か困っている人がいれば周りの人や社会が支えることは、人として当たり前のことです。いま「支える」立場にある人も、いつか必ず「支えられる」立場になることを一人一人が考え、理解することを願っています。

園長さんの話を聞いて、本当によかったと思いました。私自身、人としての生き方、自分を見つめ直すきっかけを与えていただいたと思っています。人の心を理解することは難しいことです。でも、つながって見ないと、話してみないとわからないことがたくさんあります。少しずついいから、相手の心を理解するつながりを作っていきたいと思いました。



「今、お時間よろしいですか？」

このていねいな言葉遣いで私へのインタビューを始めたのは、6年生です。社会科で考える課題の材料にするため、インタビューを行っていたのです。

考えるお題は「少子高齢化」。

「千木良にいます、道で会うのはお年寄りが多くて、若い世代が少ないと思います。どうすれば若い人たちが増えると思いますか？」

とても答えが難しいインタビューでした。でも、6年生と真剣に向き合って話し合えた、そのことがとても貴重な時間でした。「〇〇君と話せて楽しかったよ。」「それは何よりです。」

まるで大人のような返しに思わず笑ってしまいました。人とつながると学びが多いです！